

第1章 新発田市食の循環によるまちづくり推進計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

平成20年12月に制定しました「新発田市食の循環によるまちづくり条例」に基づき、市民、事業者及び市が相互の役割を理解し、協働^{*}により「食の循環によるまちづくり」を推進するためにこの計画を策定します。

【新発田市食の循環によるまちづくり条例 前文】

私たちの「ふるさと新発田」には、古（いにしえ）から治水や新田開発などにより先人たちが築き上げてきた、美しい自然に囲まれた「豊かなる大地」があります。

先人たちは、この大地と清らかな加治川の流れがもたらす風土に適した作物を育て、家庭や地域に伝わる料理をいただき、残渣を大地に還す「食の循環」という営みの中から、食べる喜び、恵みへの感謝、自然との調和、命の尊さなど多くを学び、それによって豊かな人間性を育んできました。

また、元禄時代には、この大地から生まれる豊かな実りが、「十二斎市（じゅうにさいいち）」と呼ばれる越後で最も回数が多い定期市で取引されるなど、新発田は「食」をはじめとした物資の交流により繁栄してきました。

しかし、今日では、生活様式の変化や「食」の分業化等により、「食の循環」の一連の流れが分断されて、「食」の安全性が揺らぎ、四季や作法等と結びついた日本の「食」が薄らぎ、食生活の乱れによる生活習慣病の増加や食品残渣の大量廃棄等、様々な問題が全国的に生じています。

そこで、私たちは、人や環境、社会にとって、真に望ましい「食」を実現するために、平成17年に制定された食育基本法の趣旨を踏まえ、かつて当たり前であった「食の循環」に着目し、市民、事業者及び市が一体となったまちづくりが必要であると考えます。

そのために、私たち一人ひとりがまちづくりの主役であることを自覚し、貴重な財産である「豊かなる大地」を育み、日々の暮らしの中で「食」の大切さを理解し、新たな発想と着実な行動で「食の循環」をつくり、この循環をまちづくりに活用することで、誰もが「愛せるまち 誇れるまち」と実感できる活力みなぎるふるさと新発田を次代に引き継ぐことを決意し、この条例を制定します。

2 計画策定の経緯

本市では、めざす将来都市像を「食料供給都市」として、「食」と「農」を重視したまちづくりを展開しています。そこで、平成15年度に分野を横断した総合的な推進をめざし、3つの重点課題として、「食と農の資源循環型社会づくり(農)」、「健康しばた21めざせ100彩(健康)」、「ニューフロンティア21新発田ひとづくり(教育)」を設定し取組を進めてきました。

また平成17年度には、「食と農の資源循環型社会づくりCFT(クロス・ファンクショナル・チーム)^{*}」を設置して、重点課題の具体的な取組についての検討を行い、「食」を核とした産業、健康、教育、環境、観光へと結びつけたまちづくりに取り組む必要性を提案しました。そして、平成18年度に策定した「新発田市総合計画・中期基本計画」では、「食(食育)」を中心に据えた「重点課題の推進」を基本計画として位置付けました。

さらに平成19年度には、条例の制定と推進計画の策定のため、学識経験者、公募市民、関係機関、民間団体等を構成委員とする「新発田市食のまちづくり検討委員会」を設置し、食を取り巻く様々な問題の背景には、「食(消費者)」と「農(生産者)」の距離が拡大したこと、つまり「食の循環」の各段階^{*}のつながりが希薄になったことが一つの要因であるとして、「食の循環」^{*}の一連の流れをつくり、活用することをベースとした具体的な取組を提言しました。

それを受けて、平成20年度に「新発田市食の循環によるまちづくりプロジェクト」において条例案及び推進計画案を検討し、「新発田市食の循環によるまちづくり条例」を平成20年12月に制定、翌年1月に施行しました。

「食の循環によるまちづくり推進計画」策定の経緯

分野を横断的に取り組む3つの重点課題を設定(平成15年度)

- 3つの重点課題
食と農の資源循環型社会づくり(農)
健康しばた21めざせ100彩(健康)
ニューフロンティア21新発田ひとづくり(教育)



食と農の資源循環型社会づくりCFT(クロス・ファンクショナル・チーム)…32回検討(平成17年7月～平成19年1月)

- 目的: 食と農の資源循環型社会づくりプランの策定
- 構成: 庁内職員、学校教諭、学校栄養職員
- 結果: 「食」を核とした、産業、健康、教育、環境、観光へと結び付けたまちづくりの必要性を提案



新発田市まちづくり総合計画・中期基本計画策定(平成18年度)

- 「食(食育)」を中心に据えた「重点課題の推進」を基本計画として位置付けた



新発田市食のまちづくり検討委員会…8回検討(平成19年3月～平成20年1月)

- 目的: 条例制定及び計画策定に向けた、具体的な内容を検討
- 構成: 学識経験者、公募市民、関係機関、民間団体、関係課職員
- 手法: ワークショップ方式で検討
- 「食の循環」の一連の流れをつくり、活用することをベースとした具体的取組を提言



新発田市食の循環によるまちづくりプロジェクト…44回検討(平成20年5月～平成21年5月)

- 目的: 食の循環によるまちづくり条例(案)及び推進計画(案)の策定
- 手法: 全体会議、専門部会会議、専門部会代表者会議で検討



新発田市食の循環によるまちづくり条例

- 平成20年12月制定
- 平成21年1月施行

